

研修名 幼児保育・教育

平成29年7月4日（火）13:30～16:30

講演・演習「幼児期の教育・保育における記録と評価～伝え合う力を育む～」

講師 子どもとことば研究会 今井 和子 氏



1 講演要旨

1) 記録の目的 なぜ書くのか

大事な出来事を忘れないため

目に見えない心の動きを捉え支える（感動の保存）

書くことによって自分の子どもの見方、保育の捉え方を知る＝子ども理解を深めるため

文章化（言語化）することによって自分の考えを他の人と共有しやすくなる。

今、ここにいない人にも伝えることができる。参考文献として残っていく。

2) 書き方のポイント

①視点を定める

視点や選択がないと、書きたかった事柄が見えてこない。

何を伝えたいか、書いておきたいことは何かをはっきりつかんで書く。

②子どものありのままの姿（状態像）を具体的に書く

→ その文章を読んだとき、
その情景や姿が見えてくる。

③状態像をどう観て関わったか

子どもを理解するということは、ただ外側の事実を認識することではなく、想像力を働かせ、その背景にある（その行動を起こさせた）心の世界を感じ合うこと。

④評価をしっかりと書く

評価とは…的確な現状認識、課題の抽出、その課題に対し具体的な方針を打ち立てていく作業→決意表明ではいけない。どこをどう改善するのかを考える。

2 感想

記録を書くときの要点を聞き、日々の自分の日誌などの書き方はいかが、見直そうと思いました。評価とは課題を抽出し、その課題をどのように改善させていくのかを具体的に考えることなので、もっと細かく普段の保育を振り返らなければいけないなと思いました。記録を書くことで観る力も育ち、より子どもの姿が見えて保育も変わっていくので、記録することの重要性を改めて感じました。

（ひいらぎこども園 山本裕香）